

ベネズエラ国民はボリバル革命にとどまる

ベネズエラの有権者人口の約半数は、確実にボリバル革命に賛同している。他の政治勢力は、ボリバル革命勢力が作り上げた選挙マシンを持っていない。

ビージェイ・ブラシャド

ピープス・ディスパッチ 2024年7月30日

<https://peoplesdispatch.org/2024/07/30/the-venezuela>



ミラフローレス（大統領宮殿）の外で勝利の夜にニコラス・マドゥロの演説に声援を送る人々。(写真:ゾーイ・アレクサンドラ)

ウゴ・チャベス(1954-2013)の70歳の誕生日である7月28日、ニコラス・マドゥロ・モロスは、1999年にボリバル憲法が批准されて以来、5回目のベネズエラ大統領選挙に勝利した。2025年1月、彼は大統領として3期目の6年間の任期を開始する。

彼は、2013年にチャベスが骨盤癌で亡くなった後、ボリバル革命の手綱を引き継いだ。チャベスの死後、マドゥロはいくつかの課題に直面してきた。ボリバル革命を定義したカリスマ的な人物の代わりに、大統領としての彼自身の正当性を築くこと。2014年半ばの石油価格の崩壊に対処すること。これはベネズエラの国家歳入(そのうち90%以上が石油輸出によるもの)に悪影響を及ぼした。そして、石油価格が下落するにつれて、米国がベネズエラに対して深めた一方的で違法な制裁への対応を管理することだ。

これらのマイナス要因は、2018年と2024年に投票で再選された後、10年間政権に就いているマドゥロ政権に重くのしかかった。

2013年のマドゥロ大統領の初当選以来、ますます極右化する野党は、選挙プロセスを拒否し、制度の不正について不満を漏らし始めた。過去10年間、保守派政治家たちとのインタビューで、彼らがベネズエラの労働者階級に対するチャベス主義のイデオロギー的支配と、マドゥロのベネズエラ統一社会党だけでなく、コムニオン(140万人強)から若者組織まで広がるチャベス主義のネットワークにも組織力があることを彼らが認識していることが明らかになった。

ベネズエラの有権者人口の約半分は、確実にボリバル・プロジェクトに賛同しており、ベネズエラの他の政治プロジェクトは、ボリバル革命の勢力によって構築されたような選挙機構を持っていない。これでは、反チャベス勢力の選挙に勝つことは不可能になる。そのために、彼らの唯一の道は、マドゥロ政権を腐敗していると中傷し、選挙が公正でないと不平を言うことだ。マドゥロの勝利後、51.2%対44.2%の差で、これはまさに、アメリカ合州国と南米の極右と親米政府のネットワークによって、極右野党がやろうとしてきたことである。

ヨーロッパはベネズエラの石油を必要としている

アメリカ合州国は、自らが作り出した問題の解決策を見つけようとしてきた。イランとロシア両国に厳しい経済制裁を課したアメリカは、今やヨーロッパの

パートナーのためのエネルギー源を容易に見つけることができない。米国からの液化天然ガスは高価で十分でない。米国が望んでいるのは、加工が容易で十分な量の信頼できる石油源を持つことだ。ベネズエラの石油は要件に適合しているが、ベネズエラに対する米国の制裁を考えると、この石油はヨーロッパ市場にでられない。アメリカは、解決策をほとんど見つけられない罫を作り出したのだ。

2022年6月、米国政府は、ロシアの石油供給の損失を補うために、Eni SpA(イタリア)とRepsol SA(スペイン)がベネズエラの石油をヨーロッパ市場に輸送することを許可した。この手当は、ベネズエラに関するワシントンの戦略転換を明らかにした。石油輸出を阻止してベネズエラを窒息させることはもはや不可能だった。なぜなら、この石油は、アメリカの対ロシア経済制裁の結果として必要だったのだから。2022年6月以降、米国はこの石油の必要性、ボリバル革命への反感、ベネズエラの極右野党との関係を調整しようとしてきた。

アメリカとベネズエラ極右

ベネズエラに社会主義を建設するための大衆行動の政治であるチャベス主義の出現は、ベネズエラの政治シナリオを変えた。右派の古い政党(Acción Democrática と COPEI)は、40年間の交代政権の末に崩壊した。2000年と2006年の選挙では、チャベスに対する反対派は右派ではなく、反対派の中道左派勢力(La Causa R と Un Nuevo Tiempo)によって提供された。

旧右翼は、明らかに親資本主義、反チャベス主義、親米であった新右翼からの挑戦に直面した。このグループは、ボリバル革命からの彼らの望ましい出口を指す La Salida または The Exit と呼ばれる政治的プラットフォームを形成した。ここでの主要人物は、レオポルド・ロペス、アントニオ・レデスマ、そして2014年に政府に対する暴力的な抗議行動を主導したマリア・コリーナ・マチャドだった(ロペスは暴力扇動で逮捕され、現在はスペインに住んでいるが、2009年にアメリカ政府高官は、彼は「傲慢で、執念深く、権力に飢えているとよく言われる」と述べた)。

レデスマは 2017 年にスペインに移住し、コリーナ・マチャドとともに、スペインの極右政党 Vox が組織した反共産主義宣言である極右の**マドリッド憲章**の署名者だった。コリーナ・マチャドの政治プロジェクトは、ベネズエラの石油会社を民営化する提案によって支えられている。

チャベスの死後、ベネズエラの右翼は、統一されたプログラムの欠如と、自己中心的な指導者たちの混乱と闘ってきた。アメリカは、野党を政治プロジェクトに仕立て上げようと試みることになった。最も滑稽な試みは、2019 年 1 月にファン・グアイドという無名の政治家が大統領に昇格したことだ。この策略は失敗に終わり、2022 年 12 月、極右野党はグアイドを党首から**解任**した。グアイドの排除は、ベネズエラ政府と、2019 年以來、カラカスで彼らを権力の座に留めるためのアメリカ軍介入を望んでいた極右野党との間の直接交渉を可能にした。

アメリカは、ますます頑固になる極右に圧力をかけ、アメリカが経済制裁を緩和し、ベネズエラ石油をヨーロッパ市場に輸出するのを許すため、ベネズエラ政府と会談するよう求めた。この圧力は、2023 年 10 月のバルバドス合意につながり、両者は制裁の緩やかな撤退の根拠として、2024 年に公正な選挙を行うことに合意した。7 月 28 日の選挙は、バルバドス・プロセスの結果である。マリア・コリーナ・マチャドは出馬を禁じられたにもかかわらず、彼女は事実上、代理候補のエドムンド・ゴンサレスを通じてマドゥロに対抗し、激戦の選挙で敗れた。

投票が締め切られてから 23 分後、カマラ・ハリス副大統領(現在は 11 月の米国大統領選挙の候補者)は、極右が敗北したことを認める**ツイート**を出した。それは、アメリカ合州国が、不正選挙について騒ぎ立てながらも、極右の同盟国を乗り越え、ベネズエラ政府との関係を正常化し、石油がヨーロッパに流れるのを許す方法を見つけたかったという初期の兆候だった。アメリカ政府のこの傾向は、ラテンアメリカ中の他の極右勢力に支援を求め、残された政治的議論が不正選挙に関するものであることを知っている極右を苛立たせている。

もしアメリカ政府が、ベネズエラの石油をヨーロッパに運びたいのであれば、極右を放棄し、マドゥロ政権を受け入れる必要がある。一方、極右は、2017年のガリンバ(バリケード)の混乱を繰り返そうとする武装ギャングを通じて街頭に繰り出している。

(了)

ビジェイ・プラシャドは、インドの歴史家、編集者、ジャーナリスト。

Globetrotter のライティングフェロー兼チーフ特派員。

Tricontinental: Institute for Social Research のディレクター。「The Darker Nations」や「The Poorer Nations」など、20冊以上の著書がある。最新の著書は、Struggle Makes Us Human: Learning from Movements for Socialism と(Noam Chomsky との共著)The Withdrawal: Iraq, Libya, Afghanistan, and the Fragility of U.S. Power。

この記事は Globetrotter によって作成されました。

【翻訳チェック 田中靖宏】